



【進路決定に向けて追い込みの時期 本気で取り組み、さらなる高みを目指せ！】

～ センター試験まで 71 日 ～

秋も深まり、学習や運動に最適の季節となりました。3 年生では、時間割を組替えて演習に重点を置いた特別編成授業が本格的に始まります。大学等の推薦入試は今月がピークとなり、最後の「大学入試センター試験」まで、およそ70日となりました。いよいよ受験期となります。これからの数ヶ月の過ごし方次第で皆さんの進路が大きく左右されます。全力でがんばってください。1・2 年生は、現学年の成績や文理・コース選択に繋がる大切な行事が続きます。1 年生は文理選択を意識した学習を、2 年生は受験につながる学習を心掛けてください。この11 月がそれぞれの学年や高校生活のなかでどのような意味を持つかを認識し、真剣に授業に取り組むとともに、毎日の生活パターンや時間の使い方、学習習慣を見直してください。各学年とも年度の半ばを過ぎていよいよ「まとめ」と「追い込み」の時期です。今までに蓄えた力を発揮し、目標を持って充実した毎日を過ごしてさらなる高みを目指してください。

【学力の向上＝学習の量×学習の質】

11月になり、学校行事や部活動などもひと段落し、学習に集中できる時期となりました。落ち着いて学習に取り組める今、学力を伸ばすためには、どのような学習を心がければよいでしょうか。右には、学習の「量」と「質」に関連する先輩方のデータを出しています。

まず、＜学習の量＞についてです。

「平日1時間30分以上勉強している、成績◎と成績▲の割合」を示しています。

⇒成績◎と成績▲では45%以上もの差があることが分かります。

次に、＜学習の質＞についてです。

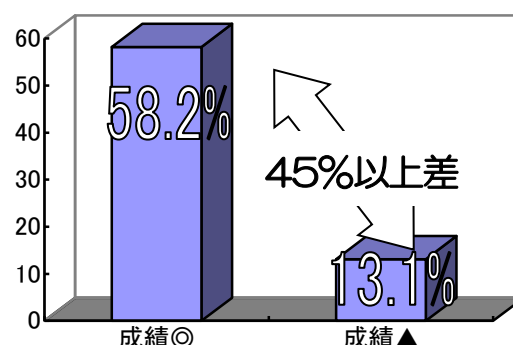
「ただ暗記するのではなく、理解して覚える成績◎の人の割合」は80.9%です。

⇒多くの成績◎の人が「理解」を大事にしていることが分かります。

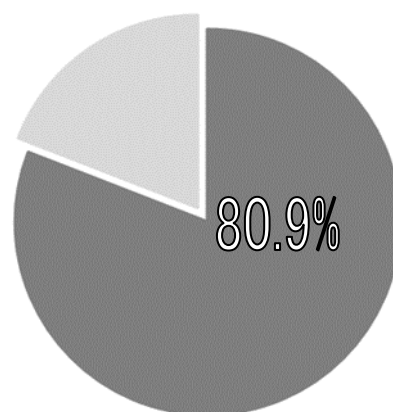
これらからもわかるように、学力の向上には、学習の「量」と「質」の2点を両立させた学習習慣が求められますので、両立させた学習習慣を確立しましょう。

データは、2018 年度スタディーサポート1 年生第2 回全国集計結果より。
「成績◎」はGTZ (学力) : S1～S3 (難関大合格レベル)、「成績▲」はD1～D3 (基礎・基本養成レベル) の生徒の平均回答率。※「GTZ (学力)」は、学力の到達度をS1～D3 の15 段階の大学群で表示したものです。

＜学習の量＞



＜学習の質＞



【就職・公務員試験の結果から】 ～ 最終合格に向け、引き続き努力を！ ～

9 月中旬に始まった民間企業の入社試験において、現在24 名が内定を得ています。また、公務員試験では警察官3 名が1 次試験に合格し、自衛隊は結果待ちでこの後、2 次3 次と続きます。本校では大原学園の協力を得て引き続き試験対策を行っていきます。なお、進学希望者であっても、何らかの事情により民間企業への就職に切り替えることもあります。現在も追加募集をしている企業は多く、10 月29日と31日には、土浦市等の主催する就職説明会(合同面接会)が行われました。進路指導部では皆さんの希望を聞き、ハローワークや企業と連絡を取り、情報収集と会社見学等の調整をしています。進学・

就職の何れであっても将来の展望をしっかりと持ち、保護者や担任の先生とも充分に相談をして、より望ましい進路の決定に向けた行動を続けてください。

【「大学入試英語成績提供システム」見送り】

2020 年度からの運用が予定されていた「大学入試英語成績提供システム」（以下、「成績提供システム」）について、実施見送りとなることを萩生田文部科学大臣が発表しました。

○導入見送りは「等しく安心して受験できるようになっていない」ため

2020 年度からセンター試験に代わり実施される大学入学共通テストとともに大学入学選抜改革の目玉の一つだった「成績提供システム」の導入が見送られました。「成績提供システム」は大学入試センターが複数の民間の英語資格・検定試験の成績データを一元管理して各大学へ送付する仕組みで、文部科学省が10 月末に公表した調査結果によると、国立大の 95%、公立大の 86%、私立大の 65%が何らかの形で、2020 年度に実施する入試（2021 年度入試）で利用すると表明していました。

しかし、「経済的な状況や居住している地域にかかわらず、等しく安心して受けられるようになっていない。これ以上、決断の時期を遅らせることは混乱を一層大きくしかねない」ため、萩生田文部科学大臣は来年度（2020 年度）からの導入を見送ると発表されました。

大学入試センターは、見送りの発表を受けて、11 月 1 日からとなっていた受験生側が成績提供システムに成績データを登録するために必要な「共通 I D」発行申し込みの中止を発表しました。また、すでに申し込み済の場合の取扱いやその他詳細については独立行政法人大学入試センターのWebページに記載されているので、そちらを参考にしてください。



「独立行政法人 大学入試センター」大学入試英語成績提供システム

https://www.dnc.ac.jp/eigo_seiseki_system/index.html



「共通 I D発行申込書の取扱いについて(102KB)」

○注目される各大学の対応

見送りをうけて、各大学は予告していた成績提供システムの利用方法の見直しをすることとなり、なかでも国公立大は大半の大学が成績提供システムの利用を表明していたため、今後、多くの大学が改めて対応を公表し直すことになりそうです。また、私立大のうち成績提供システムの利用を考えていた大学も、国公立大同様に見直すことになりそうです。

一方、成績提供システムを経由せず、出願者本人から英語資格・検定試験の成績の直接提出を求めている大学については、対応の見直しは必要ありませんが、他大の対応を見て、資格・検定試験の扱いを再度見直す大学も出てくるかもしれません。特に現2年生は、今後の情報収集をしっかりと行って欲しいと思います。

○英語 4 技能をはかる新しい枠組みの導入は新課程入試から

文部科学大臣は、今回の成績提供システムの見送りを公表するとともに、「大学入試における新たな英語試験については、新学習指導要領が適用される令和6年度に実施する試験から導入することとし、今後一年を目途に検討し、結論を出す」としています。これから数年間は、大学入試が大きく変わる可能性があります。最新の情報を確認するようにしましょう。

また、すでに「英検2020 1 day S-CBT（以下、S-CBT）」の受験予約をしていると思いますが、こちらの返金についてもここ数日で対応が変わっており、11月6日現在では、返金申込受付期間が一旦延期となっています。「一旦延期」とのことですので、今後返金の手続きの方法が示されると思います。



公益財団法人 日本英語検定協会「英検2020 1 day S-CBT（以下、S-CBT）」

返金申込受付期間 一旦延期のお知らせ